

## 奥出雲の魅力でPR

# 「まちの駅長」誕生



奥出雲の顔として活躍が期待される4人

JR出雲三成駅を中心に、トロッコ列車「奥出雲おろち号」の乗客の歓迎や町の観光資源などをPRする「まちの駅長」が誕生しました。駅長には、四月から駅の委託業務を行う奥出雲振興の社員として採用された、寺戸理沙さんと今春横田高校を卒業した須山和美さん、岩田真希子さん、種村真紀さんの四人。出雲三成駅で駅の業務を担当する寺戸さんと須山さんが、トロッコ列車の利用客を出迎え、岩田さんと種村さんが、必要に応じて駅長業務をサポートします。

駅長の制服は、鮮やかなブルーを基調に、ヤマタノオロチのデザインがあしらわれ、ネクタイにはオロチのうろこをモチーフにした模様が施されています。さらに生地は、ジーンズ業界で有名ブランドの加工を手掛ける地元の人多産業から提供されています。四人からは「奥出雲町の顔として出迎え、また奥出雲に来てもらえるよう努力したい」と話されました。今後四人は、町の魅力をPRするとともに、様々なメディアを通じて奥出雲町の良さを発信します。

## 交流人口拡大に期待

### トロッコ列車 出雲市駅から初運行



四月三日、今年のトロッコ列車の運行がスタートし、出雲市駅からの運行が開始されました。トロッコ列車は、十一月二十三日までの金、土、日曜日を中心（ゴールデンウィークや夏休み、紅葉期間は平日）に運行。年間約百五十日の運行日数のうち、出雲市駅発は約五十日運行される予定です。

トロッコ列車を出迎える布勢幼稚園児たち

## 樹医や地元住民がボランティア作業

### 金言寺の大イチョウを元気に



地元住民が見守る中、大イチョウの幹の表面に付着したコケを取り除く様子

大馬木の金言寺で三月二十一日、境内にある樹齢約四百年の大イチョウ（町指定天然記念物）の樹勢を回復する作業が行なわれました。大イチョウは、高さ約三十三メートル、幹周り約五・七メートル。紅葉シーズンには、木いっぱい黄色の葉を付け、アマチュアカメラマンや観光客に人気のスポットとなっています。この樹勢作業は、昨年十一月に広島市の市民グループ「巨木を訪ねる会」（加納千里子代表）のメンバーが、県内を巡るエコツアーで金言寺を訪問。その際、メンバーで樹医

の伊藤之敏さん（庄原市）がこのままでは樹勢が衰えてしまつと気づき、「巨木を訪ねる会」とともにボランティアでの作業を申し出たのがきっかけです。参加者は、根元の土に約四十センチの穴を掘り、根に活力や栄養を与える堆肥を敷き詰めたり、人が根本の土を踏み固めないよう、周辺にロープを張り巡らせていました。また、伊藤さんが高所作業車に乗って、樹皮に付いたコケなどを取り除くなど、秋の黄葉を願い、作業は無事に行われました。

## 医療技術の

スペシャリストを目指す

## 島根リハビリテーション学院入学式

四月八日、第十三回島根リハビリテーション学院の入学式が、カルチャープラザ仁多で開催され、理学療法学科三十人、作業療法学科二十四人が新しいキャンパスライフをスタートさせました。式には、在校生や県、町の関係者約三百人が出席。はじめに、入学生一人ひとりの呼び名があり、谷河精規学院長から「主体性を持ち、受け身であってはいけない。自



誓いの言葉を述べる武田淳さん

ら描いた目標に向かって学院生活を送ってください」と告辞がありました。

これを受けて理学療法学科の武田淳さんが「人とのつながりを大切にできる理学療法士になりたい。夢実現のために日々挑戦したい」と誓いの言葉を述べました。これから新入生は、理学療法士、作業療法士の国家資格取得を目指し、講義や学外での臨床実習を通じて専門知識を学びます。

## 島根デザイン専門学校 入学・入所式

四月十三日、島根デザイン専門学校の入学式と併設する奥出雲工芸房の入所式が行われました。

デザイン専門学校は、デジタルデザイン科に五名、モノ制作科に七名、陶芸の技術を学ぶ奥出雲工芸房の研究生に一人が入学しました。式では、青木和幸校長から「大切なことは人間性を豊かにすること。本物を創ることの喜びを知ってほしい」と式辞があり、在校生代表の原真人さんから「ここにはデザイ

ンを通じ自分を見つめ直す環境がある。お互いを高め合っていくきましょう」と歓迎の挨拶がありました。

これを受け、新入生を代表してビジュアルデザイン科の藤田蓮さんが「自分たちの責任において判断行動し、それぞれの目指す夢に向かって日々精進して行きたい」と誓いの言葉を述べました。これから幅広い世代の仲間とともに、奥出雲の恵まれた自然環境の中で、創作の腕に磨きをかけます。



新入生を代表して 藤田蓮さんが宣誓

## 地域消防に協力 消防団協力事業所に認定

四月三日、春の火災予防週間に合わせ、日頃から消防活動に対し、積極的な協力をしている町内の四事業所に消防団協力事業所の表示証が交付されました。

交付されたのは、三沢建設、安部建設、糸賀工務店、横田建設の四事業所。交付式で井上町長が「災害に強い町づくりを実施する上で地域事業所の協力は不可欠



井上町長から表示板を受ける事業所の皆さん

今後とも協力をお願いしたい」とあいさつがありました。

## 船通山周辺で携帯電話が利用できるようになりました

平成21年度の携帯電話エリア整備事業により、船通山局を竹崎地内に開設しました。これにより不感地帯であった斐乃上温泉周辺や県道印賀奥出雲線の日南町との県境までの区間、携帯電話が利用できるようになりました。

利用できる機種は、au、NTTドコモ、ソフトバンクの3社です。